

「公害のない世界を」

上智大の留学生ら93人 水俣訪れ患者らと交流



上智大学院地球環境学

研究科の留学生など93人が

31日、水俣市の研究拠点施

設「水俣環境アカデミア」

で胎児性水俣病患者と交流

したり、市立水俣病資料館

語り部の会の杉本肇さん(55)の講話を聞いたりした。熱心に耳を傾けた学生たちは、公害のない地球環境を築くことへ思いを新たにしました。

いずれも胎児性患者で水

俣市の小規模多機能施設

「ほっとはうす」に通う永

本賢二さん(57)、松永幸一

郎さん(53)、長井勇さん

(59)が原因企業チッソへの



水俣環境アカデミアで胎児性水俣病患者たちと交流、握手を交わす上智大の学生たち

思いやこれまでに受けた差別、体に起きた異変や現状

などを話した。

杉本さんは、水俣病に苦しみながら「国も県もチッソも許す」と話した亡き母、栄子さんの言葉を紹介。「簡単に言える言葉ではない。

『二度と過ちを繰り返すな』という思いが込められている」と語ると、学生たちから拍手が送られた。

中国・吉林省から今秋、来日した鐘敏さんの(24)は「希望を持って元気に生活している姿に感動した。公害のない平和な世界をつくらせていきたい」と語った。

環境学習のため10月30日から水俣を訪問している中国や韓国など18カ国の学生たちは11月1日まで滞在。最終日はグループ討論などを行う予定。(河合仁志)